

次の古文を読み、あとの問いに答えなさい。

(1) 今は昔、^{*}もろこしに、孔子、道を行きたまふに、八つばかりなる童^{わらわ}あひぬ。孔子に問ひ申すやう、「日の入る所と洛陽^{らくやう}と、いづれか遠き。」と。孔子いらへたまふやう、「日の入る所は遠し。洛陽は近し」。童の申すやう、「日の出で入る所は見ゆ。洛陽はまだ見ず。」⁽²⁾されば日の出づる所は近し、洛陽は遠しと思ふ。」と申しければ、孔子、「かしこき童なり。」と、感じたまひける。「孔子には、かく物問ひかくる人もなきに、かく問ひけるは、⁽³⁾ただものにはあらぬなりけり。」とぞ、人いひける。

(『宇治拾遺物語』)

問1 本文中の歴史的仮名遣いを、現代仮名遣いに直しなさい。

問2 傍線部(1)の意味として最適なものを選び、記号で答えなさい。

(ア) 今は昔にもどらぬことだが、

(イ) 今となつては昔のことだが、

*もろこし 中国の古い呼び名。
*洛陽 中国の昔の都。

- (ウ) 今と昔とでは違うことだが、
- (エ) 今も昔も変わらぬことだが、

問3 傍線部(2)の働きとして、最適なものを選び、記号で答えなさい。

- (ア) 並立の関係を示す。
- (イ) 逆接の働きを示す。
- (ウ) 順接の働きを示す。
- (エ) 比較の働きを示す。

問4 傍線部(3)はだれのことですか。本文中の一語で答えなさい。

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

信安といふものありけり。世の中に強盗はやりたりけるころ、もし家家のてゝさがさる事事があるかもしれなもぞあるとて、強盗をすべら
 かさむ料ためのものとしてに、日暮るれば、家の外に小竹を多く散らし置きて、つとめてはとりひそめけり。ある夜、家近く、焼火事亡亡
 のありけるに、あわてまどひて出づとて、その小竹にすべりて、(1) まろびにけり。腰を打ち折りて、年の寄りたれ
 ば、ゆゆしくひびくわづらひて、日数経ひかずてぞからやうとのとくしてよくなりける。いたくあまのり(2) 支度すくの勝れたるも、(3) 身に引きかづ
 くこそをかしけれ。

〔古今著聞集〕

問1 傍線部(1)「まろびにけり」の主語はだれですか。本文中のことで書きなさい。

問2 傍線部(2)を現代仮名遣いに改めて、ひらがなで書きなさい。

問3 傍線部(3)「支度」について、次の①、②の問いに答えなさい。

- ① 「支度」の具体的な内容が述べられている部分を、本文中から十五字以内で抜き出して書きなさい。
- ② 信安が何の目的でこの「支度」をしたのかが述べられている部分を、本文中から十字程度で抜き出して書

きなさい。

問4 傍線部(4)は、どういうことですか。次の中から最適なものを選び、その記号を書きなさい。

- (ア) かえって年寄りにはいい薬になること。
- (イ) かえって取り越し苦労に終わってしまうこと。
- (ウ) 逆に身体の心配のしすぎにつながる事。
- (エ) 逆に我が身にふりかかって災いのもとになること。

問5 本文の内容と最も関係の深い格言を、次の中から選び、その記号を書きなさい。

- (ア) 備えあれば憂いなし。
- (イ) 過ぎたるは及ばざるがごとし。
- (ウ) 良薬は口に苦し。
- (エ) 虎穴に入らずんば虎兎を得ず。